

# 巻頭言

COVID-19のパンデミックは、世界的に大きな被害をもたらし、文明史的にも大きな傷跡を残そう。それは人々の行動を変えただけでなく、社会構造をも変えつつある。感染拡大時期には、3密（密閉、密集、密接）回避が強く要請されていた。従前から成熟してきた社会を分かち、群れから個としての行動が感染拡大の抑制的行動だからである。学生にとっても影響は甚大で、大学キャンパスは閉鎖されグループ学習などの活動も制限された。講義スタイルは、学年全体を対象にした対面講義からオンライン講義がメインとなり、個別に講義を受けることになった。一方、教員側に立ってみると、これまで学生が理解しやすいように工夫してきた対面授業がオンラインに変わり、新たな工夫を模索しなければいけなくなった。うまくいった工夫もあるが、これまでと比べて教育効果が低下してしまった講義も少なくない。このような状況で高い学習効果を得るには、学生のしっかりした価値観と自我の確立した個別学習、すなわち自律型学習が必要となる。

本書のテーマは解剖学と生理学であり、医療を志す者であれば必ず学ばなければならない学問領域である。それでは、解剖学と生理学とはなんだろうか？ 広辞苑によると、解剖学は「生物体内部の構造・機構を研究する学問」、生理学は「生体またはその器官・細胞などの機能を研究する学問」とされている。一見別ものようだが、解剖＝構造のもつ意味を理解するためには構造だけみては不十分で、構造のもつ機能＝生理を理解しなければならない。すなわち、人体について正しく理解するためには両者を統合的に理解する必要がある。医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、「人体の正常構造と機能」として解剖学と生理学の統合的理解を求めている所以である。統合的な人体の正常機能（クロード・ベルナルの提唱したところの「内部環境の定常性」）の理解を深めておくことが患者さんの病態の理解へとつながり、将来よりよい医療を提供できる人材になるために重要である。

以上を踏まえ、本書では、多くを学ばなければならない学生が、自律的に効率よく高い学習効果を得られるように工夫した。①将来の医療現場で役立つ質の高い情報を好きな項目から読めるようにした、また全体として読み切れる分量にコンパクトにまとめた、②構造と機能を写真やイラストを多用することで知識を長期記憶に移行しやすくした、③各項目に国試練習問題を設けることで将来の到達目標をはっきりと示した、④各項目冒頭に要点を整理することで学習内容を概観できるだけでなく反復学習を行いやすくした、などである。

医療職を目指す学生諸君は、生涯学習として最終的には医療現場で役立つ（活用できる）医学知識獲得法を構築し、それを絶えず更新していくスタイルが必要です。さらに、患者さんに接するとき、知識、技能のみならず、人間的な素養（共感できる態度）が滲み出る人格の醸成が必要です。それらが、患者さんの満足度向上につながります。基礎的な医学の学習が将来の医療（診療）スタイルにつながることを意識し自律的に学習してください。

2022年1月

松尾 理